



# 地域なんでも情報局

第18号

平成27年3月17日発行

長崎市社会福祉協議会  
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281



力強く杵を振る子どもたち

今年で7回目を迎える長崎市社協西町支部主催の餅つき大会が1月25日（日）に開催されました。毎年、地元の（福）致遠会 特別養護老人ホームサンハイツより、餅米50キロを提供いただき、臼や杵などの道具類一式も貸し出していただいているそうです。餅つき大会の会場となった緑が丘地区ふれあいセンターには、朝早くから地元の自治会関係者や老人クラブ、育成協、育友会、小中学校の教員の他、ボランティアや多くの家族連れが集いました。



ペタン ペタン

## 第7回 西町餅つき大会



大人も負けていません！

会場内には、「イチツツ、ニッ、サン！」と小気味良い掛け声飛び交い、時折タイミングが合わず、杵同士がぶつかり合う場面もありましたが、誰からともなく次の掛け声がかかり、あつという間に餅がつきあがっていきます。餅つきの仕上げは未来の西町を背負う元気な西町っ子たち。大人顔負けに力強い杵さばきを見せる子どもたちの姿に、周りで見守る大人も、頼もしさを感じておられる様子でした。用意された50キロの餅米は瞬く間につきあがりましました。ふれあいセンターの駐車場で面した和室では、つきあがった熱々の餅が、ふれあい食事サービスピランテニア「なのはな会」の女性陣の手で

手際よく丸められていきます。女性陣に混じり、小学生の女の子たちも大人の手さばきをじつと観察しつつ、時折コツを伝授してもらいながら手の中で丸める餅をニコニコしながら眺めていました。また、西町地区には多くの外国人のファミリーが居住されており、道すがらカメラを構える人や、おすそ分けされた餅を美味しそうにほおぼる家族連れの姿が見られました。餅つきという地域行事を通して、世代や国籍を超えた住民同士の絆が深まったようです。



餅の販売には長蛇の列が。つきたての餅は大人気です！



餅つき大会の翌週には、餅つきにお世話いただいた方々の労をねぎらう恒例の反省（懇親）会が行われ、より一層参加者同士の絆も深まったようです。



あの人！どんな人！どんな人！  
田崎光男さん 西北地区

田崎光男さんは、西北地区在住で、長崎市社協西北支部（以下、「支部」という。）の監事の他、自治会長、民生委員、保護司を務められておられ、地域の良き相談役として活躍されています。昨年の5月23日に、支部区域内では3ヶ所目となる高齢者ふれあいサロン（以下、「サロン」）「西北わいわいふれあいサロン」を立ち上げました。サロンについては、同じ支部内でサロンが立ち上がっていることが気になっていたので、何より地域のおばあちゃん達から近所の仲間が集まることのできる場所があればいいなあと、声が上がったことがサロンを作ったキッカケだったそうです。

また、田崎さんは自治会長や民生委員としての活動の中で、地域の高齢者が一番気になっている話です。田崎さんの話によると、地域の高齢者の中で1年間で4人家の中での事故で亡くなり、そのうち3人が一人暮らしだったとのこと。こうした事故が未然に防げるように、地域の中で高齢者を見守る仕組みをどうやって作るか行けばいいかをいつも考えておられるそうです。

最後に、多くの自治会も悩んでおられることだと思いますが、年々自治会活動に関わって（協力して）くれる人が減ってきていることについては、「地域の人や少く自治会のことに関心を持って、地域を傾けて協力してくれるように、地域の皆さんが関心を示し、楽しく参加できるようにしたい」と語っておられました。



皆さん、毎回楽しみにされているそうです

社協会員募集中!!

『地域なんでも情報局』は、市民の皆様からお寄せいただいた社協会費により発行しています。

# 「みんなどうしてる、みんなのじまわわ」 社協会員加入に、ご協力をお願いいたします！

皆さんは、「社会福祉協議会（以下、「社協」という。）」をご存知ですか？社協は、社会福祉法第109条に基づき各都道府県・市町村に設置され、市民の皆様、法人・団体の皆様のご参加・ご協力をいただき、地域福祉の推進を図ることを目的とした民間の福祉団体です。また、社協は団体の特徴として、民間組織としての「自主性」と、広く市民の皆様や社会福祉の関係者の皆様、法人・団体の皆様に支えられた「公共性」という2つの側面を持っています。子どもから高齢者まで「誰もが自分の住み慣れたまち（地域）で安心していきいきとしあわせに暮らしたい」という願いは、誰しも共通の想いではないでしょうか。

全なまち」と、またある人は「便利で制度が充実しているまち」と、その答えは一人ひとり違います。長崎市社協は、そのような一人ひとりの思いに寄り添いながら「しあわせに暮らせるまち」の実現に向けて、できることから一つずつ、少しずつ市民の皆様と一緒に考え、様々な事業に取り組みしております。その取り組みは社協会員（会費）の皆様によって支えられています。「自分たちの地域のために」社協会員になることにより、一人ひとりが地域福祉活動に間接的に参加することになり、また一方では社協の応援団として、ともに「地域福祉」に取り組んでいく仲間であるとも言えます。これからも、長崎市社協の活動にご理解いただき、ひとりでも多くの市民の皆様、法人・団体の皆様方の社協会員（会費）へのご協力をよろしくお願いいたします。

## 災害ボランティアセンター設置・運営訓練



社協会員の皆様からいただいた社協会費を使って行っている事業の一つです。



ボランティアの受付風景

※毎年、長崎市総合防災訓練の中で行っている災害ボランティアセンター設置・運営訓練。災害発生後の市民生活の復旧のために行われるボランティア活動を支援します。

## 社協会員の種類と金額

種類	金額
賛助会員（個人）	1,000円（一口）
団体会員（法人・事業所など）	3,000円（一口）

※何口でもご加入いただけます。  
※会員・会費は年度ごとに更新となります。

去る、1月22日（木）、磯道町公民館において「ささえあいマップづくり講座」が開催されました。この講座は、自治会単位での災害発生時における住民（特に避難行動要支援者）の安否確認や避難支援の仕組みづくりを目的としており、今年度は市内4地区をモデル地区として指定し、各自治会の皆様方のご理解とご協力のものと、市と市社協が協働で開催しています。モデル地区の一つである、磯道町自治会は、長崎市南部に位置し、国道499号線を挟んで鹿尾川沿いに247世帯（高齢化率34.4%）が隣接する自治会です。同自治会は、平成25年10月に、地域の土砂崩れなどの危険箇所や避難所などが解るような「磯道地区防災マップ」を作成し、全世帯に配布するなど、防災意識の高い地区でもあります。ささえあいマップづくり講座には、36名（自治会役員・シニアさつき会・民生委員児童委員・消防団・婦人会・子ども会）の住民が参加。開会にあたり、松尾博道氏（同自治会会長）より「この取組みは、自治会が主体

## ささえあいマップづくり講座

災害で命を落とす住民を一人でも少なくするために ～磯道町自治会～



となり進めていくことが大切であり、皆さんのご協力をお願いいたします。」とのご挨拶をいただきました。講座がスタートしました。講座では、自治会の組（班）ごとに準備された住宅地図（白地図）をもとに、災害が起きた時に、自力での避難が難しいと思われる住民（避難行動要支援者）と、その支援者の洗い出しが行われました。洗い出された情報を、地図上にシールやマジックで記入しながらささえあいマップを仕上げていきます。グループでの話し合いです。「あのおじいさんは、一人では避難所まで行ききらいよ」、「夫婦二人暮らしやけど、二人とも足の悪かけん、声かけが必要ばい」、「あのおばあちゃん、あの人と仲のよかよ」、「あの方は、近くに息子さん、あの方は、近くに息子さんの住んだらいい」といった地域の活きた情報が次々に出されます。行政や社協では拾い上げることの出来ない地域コミュニティの絆から生まれる正確かつ活きた情報の数々に、関係者一堂驚きの一言でした。参加者によって洗い出された情報をもとに各グループで「ささえあいマップ」が完成。今後は、この大判の「ささえあいマップ」を、避難訓練や災害発生時に活用しやすくするため、組（班）ごとに縮小する作業が行われる予定です。また、「ささえあいマップ」は、災害が発生した時だけでなく、日頃からの見守りやささえあいの活動にも活用していただければと願っています。



みんなで取組むことに意義がありますね！

## ボランティア交流研修会

長崎市社協伊良林支部

長崎市社協伊良林支部（以下、「支部」という。）では毎年1回、支部内のボランティアが一堂に会し、地域福祉に対する研鑽を高めるとともに、支部内のボランティアの交流を図るために、「ボランティア交流研修会」が開催されています。



IBSの他に、地域の様々な団体や、住民（ボランティア等）が参加していくシステムに変わっていくことになる。つまり、これからは、地域住民がより一層支えあう仕組みづくりを企画しながら多様な地域資源をつくり出していくことが重要になってくる。中でも全国的に広がりを見せている「高齢者ふれあいサロン活動」は、本市でも急速に広がりをみせており、引きこもりがちな高齢者が気軽に参加できる地域交流の場として、また介護予防の場としての期待が高まっている。「といった内容でした。今回参加されたボランティアの方々の中には、自治会役員や民生委員をされている方も多く、日頃の自分たちの活動に関係する内容も多かったため、皆さん熱心に聞いておられました。最後に金谷繁臣支部長から「地域のささえあい活動の一環として、今後は、伊良林支部においても高齢者ふれあいサロンの実施を考えていきたいと思っております。」とのお言葉がありました。



皆さん熱心にメモを取られています

社協会員募集中!!

『地域なんでも情報局』は、市民の皆様からお寄せいただいた社協会費により発行しています。